

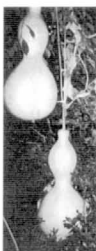
# ひょうたんと私

野田市 澤 カツ子（諏訪村東中島出身）

若い時から色々な稽古事をしてきたが、子育ての中のPTA活動で出会ったことが続いています。

グランドホッケーで毎年全国大会に出場したり、元ワールドリーグ出場者や各国商社マンと神戸三ノ宮の外人クラブ・グラウンドで交流会をしました。その監督が、学有林で生徒に瓢箪を作らせ、卒業記念に贈られた校長でした。

子供の成長と共に上京し、東京四ツ谷で生活していましたが、平成二年仕事の為、野田市に移り住み野菜と一緒に瓢箪を植えたところに関西の方から、関東での愛瓢会の会員増強の協力依頼があ



りました。私の趣味というよりは、会連の協力をさせて戴いたというのが本当のところです。

小学四年生の教科書でつるの勉強をいたします。私たちの時はへちまでしたが、ひょうたんで勉強するところもあります。

また、社会教育の題材として公民館活動や老人会活動にも取り入れられ、老人ホームなどでも縁起の良い物として、生きがい教育にもなっております。

「総合教育の題材として、瓢箪に勝るものはない。一生、関わっていきたい。」と申された秋篠宮様、今年名誉顧問から正式に名誉総裁として「就任いただき、大会でお言葉を戴きましたことは、テレビでも放映された通りでございます。

地球上に現れたのは稲よりも古く、福井、富山、滋賀などから約一万年前の瓢



箪が出土しております。この瓢箪を来年の福井の大会で展覧できればと交渉中です。

大会では素瓢と加工部門があり、総理大臣賞以下各賞、来年からは名誉総裁賞も創ろうと、宮内庁と打ち合わせさせて戴いて居るとの事でございます。

その他、瓢箪位制を設け、技術の向上を図っております。研究部では、外国の瓢との交配も試みております。海外愛好家との交流も図られ、先日も中国への訪問を終わったところです。内閣府のNPOの認証を受け一般からの応募も受付いたします。

全国の各名人の作品は素晴らしく、高齢になったので、もう作れなくなりましたが

限られた数の昔の作品を送るので、持っていて欲しい。」と、この頃理事会にもお出かけにならなくなられた兵庫の支部長をなされた方に、観音様と般若心経を五ミリ大の字を筆で書いた瓢を先日いただきました。

五年前に戴いたのを、恵信尼の廟にお参りした後でしたので、作者の了解を得て板倉役場を通じてお寺に収めさせて戴きました。

その事も覚えておられ、今回は私のお傍で大切に置かせていただきますとお約束してお受けしました。

その他の方からも沢山戴いておりますが、お預かりしたつもりで、その方の技術をつないで参りたいと存じます。

